

消費者教育 実践事例集

よりよい未来のために 自分ができることを —「エシカル消費」を楽しく学ぶ—

長野県県民文化部くらし安全・消費生活課

はじめに

エシカル消費とは、一般的に「人・社会、環境、地域に配慮した消費行動」のことをいいますが、長野県では、健康長寿県ということもあり、「健康」を加えた4つの要素で「長野県版エシカル消費」を推進しています。

2019年1月のエシカル消費推進のキックオフイベントを皮切りに、テレビCMやウェブ広告、広報紙などのメディアによる広報を始めとして、県内企業や大学生などとも協働しながら、エシカル消費の周知や実践につながる各種事業を展開してきました。なかでも、未来を担っていく若年層への啓発は重要と考えており、当課職員が学校等に講師として出向いて行う「出張授業」「出前講座」の取組を実施しています。

出張授業の位置づけ

特に小・中学校向けのエシカル消費の出張授業は、2021年11月から「お買い物で学ぶ、エシカル消費」と題し、記憶に残りやすい体験型の授業を基本として実施しています。

SDGs（持続可能な開発目標）については、国連での採択からまもなく10年が経過し、学校教育でも重視されていますが、その達成のために身近で取り組みやすいものの1つがエシカル消費であると考えられます。小・中学校においては、社会科や家庭科でSDGsを学習するなかで、一歩進んで実践的な部分を教えるに当たり、この出張授業を活用していただいています。

出張授業の内容

現在、出張授業のラインアップは、「通常版」

「短縮版」「店舗での体験型」の3パターンを学校へ提案しています。

「通常版」は教室内で2時限を使い、1時限目は模擬買い物体験から入り、エシカル消費の説明、2時限目は1時限目を振り返り、グループワークをしてもらうという流れです。

1時限目の模擬買い物体験は、印刷用紙などで手作りしたキャベツや牛乳、チョコレートなどの模擬商品を2種類ずつ準備して、異なる産地や価格を設定します。児童・生徒はあらかじめ数人ずつのグループに分かれ、グループでどちらの商品を買うか決めて（写真1）、リーダーにその商品を買いかごに入れてもらいます。そして、「なぜ、その商品を選んだのか」ということを発表してもらいます。「おいしそうだから」「マークがあるほうがよいと思った」など、それぞれが考えながら買い物をしている様子が見え、授業を行う職員にとっても気づきを得る貴重な機会となっています。

2時限目は1時限目を振り返りながら、「今までやってきたこと」「これからやりたいこと」を考えてもらう時間です。講師から一方的に話す

写真1 どちらの牛乳を選ぶかを話し合う児童



のではなく、子どもたちと一緒に考えることを意識しつつ、商品の背景を考えて買い物をするこの大切さを伝えています。そして、授業の終わりには、子どもたちから大人にエシカル消費が伝わってほしいという願いを込めて「今日の授業のことはおうちに帰って家族の皆さんともお話ししてください」と結んでいます。

県内企業との連携

県内企業との連携も進めており、2022年4月には県内でスーパーマーケット事業等を展開する株式会社デリシアと「エシカル消費推進のための連携協定」を締結しました。この協定に基づく取組の一環として、寄付金を贈呈いただき、未来を担う子どもたちに向けた各種啓発事業に活用しています。

2023年度には寄付金の一部を活用し、県内のりんごの木の廃材を再利用した「森のタンブラー」を子ども向けの啓発物品として作成し、出張授業を受けた児童・生徒に配布する取組を始めました。タンブラーのデザインには県のPRキャラクター「アルクマ」のイラストと「エシカル消費」の文字を入れており、出張授業の後も、家庭でタンブラーを使ってもらうことで、エシカル消費を身近に感じられるように工夫をしています。

また、2024年度からは同社の協力を得て「店舗での体験型」の出張授業を開始しました。実施方法は学校側の希望や店舗の状況に応じて調整しますが、基本的には通常版と同じく2時限を使い、1時限目は教室でエシカル消費の説明を行い、店舗へ移動、2時限目は店舗内で「エシカルな商品を探す」または「エシカルな商品を選んで買い物をする」(写真2)という流れです。実際に商品を手にとって比較することで、パッケージなどからさまざまな情報が読み取れることを体験して学んでもらいます。

2024年度は小学校、中学校の各1校で実施しました。実際の店舗で商品が並んでいるとこ

ろを見て回るのはやはり違うようで、児童・生徒たちの反応は非常に良く、「地元で作られたものを選ぶ」「環境マークがついていることを確認して選ぶ」など、前段の授業で学んだエシカル消費のポイントを意識しつつ、楽しみながら商品を探している様子だったため、今後も継続していきたいと考えています。

今後の展開

県では、今後もエシカル消費の出張授業、出前講座を実施していくこととしており、今回ご紹介した「通常版」と「店舗での体験型」以外にも、1コマだけの短縮版、SDGsを絡めた授業内容のアレンジなど、現場でのニーズに合わせていっそうの充実を図っていききたいと考えています。

また、2024年度からは、県の各部局がそれぞれの施策の展開に当たって県民の皆さんに呼びかけるエシカルな消費運動を「しあわせバイ信州運動」として統一的に呼びかけています。

地元産品や県産材の消費拡大、環境に優しい消費行動の促進、障がい者就労施設で作られた製品の購入など、県の各部局が進める取組で統一的な呼びかけを行い、「エシカル消費が拡大すれば、エシカルな商品が増えて、社会が少しずつよくなっていく」という好循環が生まれるように、県民や企業の皆さんと一丸となって、エシカル消費を推進していきたいと考えています。

写真2 店舗でエシカルな商品を探す児童

